

グローバルレベルでICTインフラ運用の最適化、 事業継続性の向上を実現

「グローバルICTインフラ運用ソリューション」

世界でビジネスチャンスの拡大を図る日本企業。ビジネス基盤を支えるICTインフラにもグローバルレベルでの運用が求められています。富士通ではデータセンター等の「グローバル・インフラストラクチャー・サービス」やクラウドサービスをワールドワイドに展開。セキュリティ、ICT統制、事業継続等の運用ニーズに高い次元で応えています。

グローバル経営のビジネス基盤を支えるICTインフラ運用

東日本大震災からの復興に全力を尽くす日本企業にとって、グローバルな事業展開は一段と重要になっています。近年、日本企業はアジアや新興国において海外現地生産に加え、市場開拓の布石も打ってきました。また震災後、災害リスクの分散や電力不足への対応といった事業継続の観点から、さらなる海外シフトを検討するケースも増えています。

日本企業のグローバル経営においてビジネス基盤を支えるICTインフラのグローバルレベルでの運用は重要なポイントになります。グローバルICTインフラ運用の課題として多くの日本企業が様々な調査で挙げている項目が、セキュリティ、地域の特性や法規制への対応、ICT統制、事業継続です。

例えば、「ICT要員が不足する海外法人において十分なセキュリティ対策やローカル法規制への対応がとれていない」「日本本社のポリシーと整合性がとれず、個別最適となっており、グローバルレベルでベストプラクティスを活用できていない」といった課題があります。

ICT統制では、IFRS^①への対応も不可避です。また、製造拠点から販売拠点へのシフト

に伴う顧客データ等を扱うためのセキュリティ強化や、システムの拡大による運用管理コストの増大等、事業の発展段階によってグローバルICTインフラの運用に関する課題も変化します。震災後、事業継続をより重視する傾向も顕著です。

グローバルICTインフラ運用の様々な課題を解決するポイント

グローバルICTインフラ運用の様々な課題を解決し、日本企業のさらなる成長や競争力向上に貢献するべく、富士通では2009年から「グローバル・インフラストラクチャー・サービス」をワールドワイドでご提供しています。同サービスのコンセプトは、グローバルで均一なサービス品質を実現し、グローバルレベルでICT運用の最適化を図っていくことです。日本で使い慣れている高品質なサービスを海外の拠点でも利用できるため、安心・安全かつ迅速にグローバルICTインフラの構築、運用を可能にします。

「グローバル・インフラストラクチャー・サービス」のコンセプトを実現する上で重要なポイントが3つあります。

1. 全世界に広がるサービス提供基盤

富士通では、国内外100拠点のデータセ

① IFRS
International Financial Reporting Standards。
国際財務報告基準。
国際会計基準審議会 (IASB) によって設定される会計基準。

ンター、25カ国語（総計）以上をサポートするマルチカスタマーサービスデスクをサービス提供基盤として展開しています。（詳細は次ページ）

2. グローバルレベルで標準化されたサービス品質

ワールドワイドでサービス基盤とサービス手法の標準化を図りつつ、豊富な運用実績とノウハウをベースに、日本企業が求める高い品質を実現しています。

3. グローバルレベルでのICT運用の最適化を強かにバックアップするグローバルサービスマネージャー

グローバルサービスマネージャーは、日本本社の運用ポリシー等も理解した上で、現地拠点のサービスオペレーションを行うローカルサービスマネージャーとも緊密に連携し、日本本社（グローバルヘッドクォーター）に対する総合窓口となります（図1）。グローバルサービスマネージャーを通じて、日本本社は運用の統一性やシステムの考え

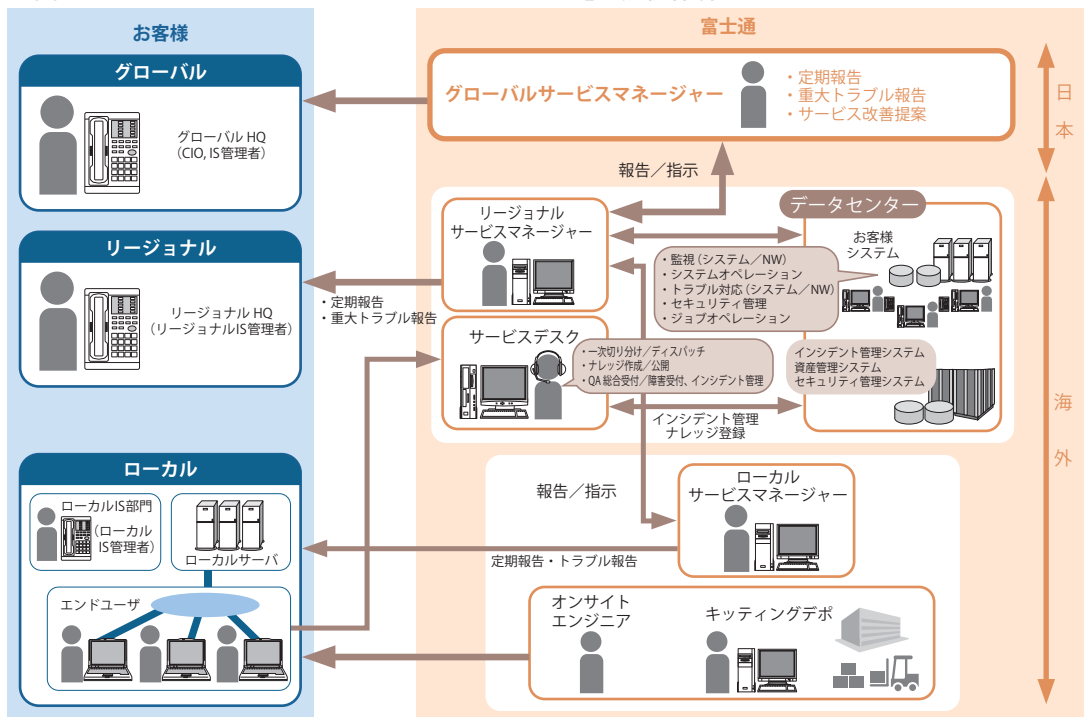
方、問題点の共有等、グローバルICTインフラ運用の全体を見渡すことができます。グローバル統制とローカルの自律性のバランスを考慮する際も、グローバルサービスマネージャーのサポートは非常に有益です。

標準化された高品質なグローバルICTインフラ運用を実現

2010年ICTサービス市場シェアで国内第1位、世界第3位^②の実績をもつ富士通。トータルサービスを世界規模でご提供できるビジネスパートナーとして、富士通だからこそできるICTサービス、それが「グローバル・インフラストラクチャー・サービス」です。サービスメニューには、データセンターサービス、デスクトップマネージドサービス、サーバマネージドサービス、ネットワークサービス、サービスデスクサービスがあります。次にサービス提供基盤の中核となる、データセンターサービスを中心に、注目のグローバルクラウドサービスについてもご紹介します。

② ITサービス売上実績
出典：ガートナー「Market Share IT Services, 2010」
(2011年3月31日)

■ 図1 「グローバル・インフラストラクチャー・サービス」の提供体制イメージ



※HQ：Head Quarters、本部 CIO：Chief Information Officer、最高情報責任者 IS：Information System、情報システム NW：Network、ネットワーク

富士通のデータセンターは国内外で100拠点を展開

日本企業が海外に拠点を展開した時、事業の拡大も視野に入れ、電源トラブルや空調、運用の品質等を考慮しながら自社でデータセンターを設置するのは膨大なコストと時間がかかります。また、セキュリティ、地域の法規制への対応、事業継続、運用管理コストの削減等、グローバルICTインフラ運用が抱える課題解決においてもデータセンターの活用は有効な選択肢です。

「グローバル・インフラストラクチャー・サービス」のサービス提供基盤を担う、富士通のデータセンターは、100拠点（国内60、海外40）をワールドワイドに展開しています（図2）。海外のデータセンターにおいても、高度なセキュリティと堅牢なファシリティ、低消費電力、最新テクノロジーの活用等、最先端のサービス環境を実現し、基幹システムから業務システムまで企業のニーズにあわせ、日本と同様に高品質なICT運用サービスをご提供しています。

また、グローバルサービスマネージャーを中心とする運用面も含めたサービスは、富士通の海外データセンターの特長です。企

業によってセキュリティポリシーや、グローバル統制とローカルの自律性のバランスは異なっており、各拠点のバックアップだけをデータセンターで行うといった柔軟な運用が必要なケースもあります。富士通の海外データセンターの活用により企業のニーズにあわせ、グローバルICTインフラ運用を実現しながら、運用管理の負荷やコストの最適化が図れます。

災害対策、コストの最適化を図る海外データセンター活用例

では、日本企業は実際にどのような目的で海外のデータセンターや運用サービスを活用しているのか。富士通における事例をもとに、代表的な4つのケースをご紹介します。

1. 災害対策レベルの向上

海外拠点内にサーバを設置したため、ビル電源事故発生等により数時間の業務停止が発生するという課題に対し、富士通データセンターにDR[®]システムを構築、事業継続性の向上を実現しました。

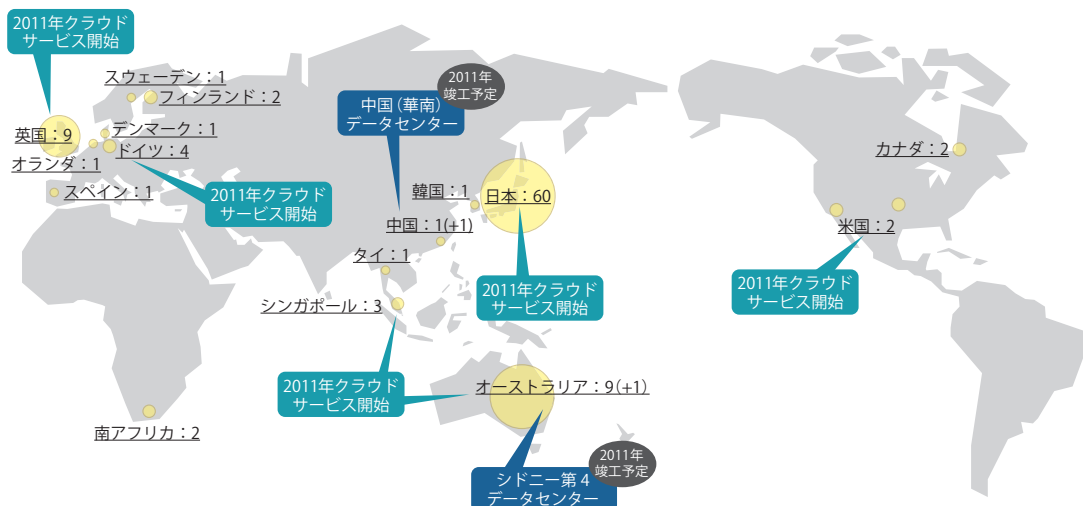
2. 運用管理の効率化

事業拡大に伴うICTインフラの増強を行

DR

Disaster Recovery。ディザスタリカバリ。災害（地震、火災、水害、テロ等）によって引き起こされるシステム障害を復旧・修復すること。

■ 図2 ワールドワイドに展開する富士通のデータセンターとクラウドサービス



う時に、ICT要員の不足という課題に対し、運用管理の効率化を目的に、富士通のリモート・インフラ管理サービスを利用。インドのオフショア運用センターからお客様のデータセンター内のシステム運用を可能にしました。

3. データセンター統合によるコストの最適化

アジア地区に広がる各拠点のシステムの統合や運用の見直しという課題に対し、シンガポールの富士通データセンターにシステムインフラを集約し、コストの最適化とともに、日本本社のポリシーをベースとした運用標準の推進、セキュリティや災害対策レベルの向上を図りました。

4. 海外事業展開における迅速な

ICTサービスの提供

北米へ事業のパイロット展開を迅速に実施したいという課題に対し、北米にICTサービス基盤等もない中、富士通データセンターの活用により短期間で円滑な運用体制の構築を実現しました。

また震災後、電力不足等により日本国内のデータセンターに加え、DRの拠点としてアジアやオーストラリアのデータセンターの活用を検討するケースも増えています。

日本と同品質のクラウドサービスをグローバルに展開

コスト削減や事業展開への迅速かつ柔軟な対応等の面から、グローバルICTインフラ運用においてもクラウドサービスの活用は重要なポイントになります。富士通では、パブリック型クラウドサービス「Fujitsu Global Cloud Platform FGCP/S5（以下、FGCP/S5）」を展開しています。本サービスは、2010年10

月よりご提供を開始した「オンデマンド仮想システムサービス」を改称し、同等のサービスを6カ国（日本、オーストラリア、シンガポール、米国、英国、ドイツ）のデータセンターから利用できるもので、日本発でグローバルに展開するパブリック型クラウドサービスとしては、世界初となります。

FGCP/S5の活用により、海外においても日本と同品質のICTインフラを容易に構築することができます。可用性は99.99%を目標とし、ダウンタイムの極小化を図る自動フェイルオーバー機能等、止まらないシステムを徹底追求、事業継続性を高めています。仮想サーバに割り当てたスペックの保証や、IP-VPN^④による企業内イントラネットへの接続等、企業ユースへの高い次元での対応も強みです。

FGCP/S5は日本と同様のクラウド・プラットフォームであるため、DRシステムの構築も容易です。クラウドサービスを活用したDRシステムの構築は、バックアップのデータをコピーする時だけサーバを動かすといった従量課金制のメリットを活かした使い方もでき、コストの抑制も図れます。

2011年12月には、富士通の館林データセンターに携わったスタッフが設計、構築を担当し、中国政府系企業との共同で構築した「中国華南データセンター」の稼働が開始する予定です。各グローバルクラウドセンターを相互にネットワークでつなぎ、ワンストップでより柔軟な対応を可能にする計画も進行中です。

富士通は、日本企業の海外ビジネスの発展と競争力の強化に貢献するべく、これからもグローバルICTインフラの運用支援の強化、拡充を図っていきます。

④ IP-VPN

Internet Protocol Virtual Private Network。一般に通信事業者が独自に保有する広域IP通信網を通信経路とする仮想的なプライベートネットワーク。